HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | Negative Imperatives |
| Author(s) | 高橋, 英光 |
| Citation | 北海道大學文學部紀要, 40(2), 149-167 |
| Issue Date | 1992-02-05 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/33583 |
| Type | bulletin (article) |
| File Information | 40(2)_PL149-167.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 40-2 (1992)

# NEGATIVE IMPERATIVES

高 橋 英 光

## 0. 否定命令文の多義性

この論文では否定命令文の多義性を含む幾つかの問題を話者の発話過程の観点から説明することを試みる。

Lyons (1977 : 773-774) は (1) のような否定命令文は多義であり，(2) a-b が示すような二通りの意味解釈ができる事を指摘している。

(1) Don't trust him.

(2) a. "I say so —let it not be so— (that) *p*" (contradictory reading or modal negation)

b. "I say so —so be it— (that) not-*p*" (contrary reading or propositional negation)

*p* : proposition, i. e. "YOU TRUST HIM"

例文 (1) の解釈としては (2) a がより自然であり，「彼を信じる行為を禁止する」を意味する。一方，(2) b では「彼を信じない行為を命じる」の読みになる。これと同様の観察が Davis (1986 : 73-74) でもなされている。Davies によると (3) は多義であって，(4) a-b が示すような二通りの解釈ができる。

(3) Don't tell him about it.

(4) a. I do not accept (I reject) the possibility of *p*'s becoming true.

b. I accept the possibility of not-*p*'s becoming true.

例文 (3) の場合も例文 (1) と同様に典型的な読みは (4) a であるが，次の (5) のような文脈では (4) b の提案の解釈を選ぶのが自然になる。

(5) A : How can I make sure he doesn't turn up at the party?

B : Don't tell him about it, perhaps.

つまり (5) の文脈では，否定命令は「禁止」というより，むしろ「提案」の意味が優先的な解釈になる。否定命令文に上のような潜在的に二種類の意味の可能性——「命題の打ち消し」と「否定命題の提案」——がある事は以下

の(6)の例文でも観察される。

(6) a. Don't get in the habit of borrowing things, son.
b. Just don't walk suggestively. Don't stare meaningfully. And don't dress provocatively.
c. Don't forget to tune in again tomorrow.
d. Don't fail to include three or four extra men.
e. Don't aggravate them. Don't engage in conversation with them. Just ignore them, as if they weren't there. O.K.?
f. Don't argue him out of his pessimistic stance.

これらの否定命令は単独では「禁止」の意味に解釈され易いのは事実である。しかし(7)の各例が示すように，特定の文脈が与えられるならば「提案」として理解することがより容易になる。

(7) a. A: Is there any way to make the life in a dormitory comfortable?
B: Don't get in the habit of borrowing things, son.
b. A: Can you tell me how to keep men's attention away?
B: Just don't walk suggestively. Don't stare meaningfully. And don't dress provocatively.
c. We're going to have a special feature of this week. So please don't forget to tune in again tomorrow.
d. When you hold a single women's party, don't fail to include three or four extra men.
e. A: What should I do if I'm accosted by one of the demonstrators?
B: That's a very important point. Don't aggravate them. Don't engage in conversation with them. Just ignore them.
f. A: I don't know how to cope with Peter's negative attitude.
B: Don't try argue him out of his pessimistic stance. Try saying something like, "I'm not sure that the conditions we faced then are the same as now."

以上の観察からも Lyons, Davies 等の指摘は妥当である事が分かる。しかし Lyons も Davies も上記の興味深い現象に対して十分に原理づけられた説

明を与えていない。言語学における他の意味論の問題がそうであるように，論理学に強く依存した形でしか説明がされていない。本稿では否定命令の意味解釈の問題を論理学ではなく，発話の認識観点からの分析を試みる。話者がこの構文を発話する時の語の順序に即した話者の認識的立場の選択の問題として，多義性を含めた否定命令文の主要な問題が説明できる事を主張する。まず1節では否定命令文の標準型である Don't の否定命令の発話過程のモデルを提案する。2節ではまず強意形 Do not, Don't you のそれぞれの否定命令の発話過程モデルを提案し，次に Don't 否定命令の解釈と呼格の関係を論ずる。3節では命令文（節）の発話に必然的に伴う問題である「話者の COMMITMENT」を取り上げ，上の3種の否定命令形それぞれの COMMITMENT CONTINUUM 上の分布を調べてみる。

## 1. 否定命令文の発話過程

言語表現の認識過程 (Cognitive Process) は三つの要素——(A) Cognitive Position, (B) Cognitive Shift, (C) Mental World (Space)——から成っている (cf. Takahashi (d))。この理論の根幹にあるのは，まず全ての言語表現には話者の立場がともなう，そして通常，現実的な内容は現実的立場 (Real-World-Position) で，非現実的内容は非現実的立場 (Unreal-World-Position) で発話される，と言う考え方である。例えば命令文は典型的に非現実的内容を表現する構文であるから (cf. Takahashi (c))，話者の立場は非現実的立場と考えられる。次の (8) のような命令文を考えてみよう。

(8) Tell him about it!

この (8) の命令文の認識過程は FIGURE 1 のように示すことができる。

The Cognitive Process of the Imperative in (8)

Cognitive Shift (CS) ·····→ Tell him about it

Cognitive Position (CP) UWP

**FIGURE 1**

この図の中で長方形の枠は命令文が喚起する Mental Space を表し，UWP

は話者の二つの認識的立場——現実的立場と非現実的立場——のうちの一つ，非現実的な認識的立場 (UNREAL-WORLD-POSITION) を，そして点線の矢印は現実世界から非現実世界の mental space と移行する話者の認識的移行 (Cognitive Shift) を示している。つまり，"Tell him about it" と言う命令文は一種の架空 (hypothetical) の心的空間 (mental space) を造り上げる一方で話者の側ではこの命令文の発話の背後で非現実的立場を採るという考え方を FIGURE 1 は表している。

ここで (3) のような否定命令文の二つの読みに対応する発話過程を考えよう。まず否定命令の潜在的な二通りの読みのうち典型的な読みである「禁止」の場合の特徴は，命題部 "tell him about it" が一種の架空の世界を扱っている一方で，否定部である "Don't" はこの命題部に対する話者の直接的な自己表現であることにある。これと同じく自己表現であり，命令文にしばしば付加されやすい話者指向表現 (Speaker-Oriented Expression)，例えば please 等が話者の現実的な立場—REAL-WORLD-POSITION (RWP)—と密接に結び付いた表現であることを考えるならば，否定表現の don't も同じ取扱をするのが道理に適っている。つまり一般に命令文は非現実的立場で発話される構文である一方で，否定命令文の「禁止」の読みの場合 Don't の認識的立場は現実的立場であると仮定しよう。すると例文 (3) が (4) a のように「禁止」に解釈される時の発話過程は FIGURE 2 のように描くことができる。

The Cognitive Process of Cancellation Reading

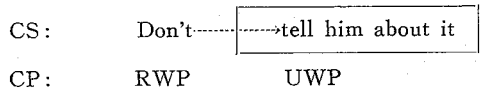


**FIGURE 2**

FIGURE 2 は例文 (3) が (4) a に相当する解釈が取られる時は，まず Don't を現実的立場 (RWP) で発言した後で非現実的立場 (UWP) へ移行して "tell him about it" と発言する認識過程を表記している。

次に上の (2) b，(4) b の意味解釈に相当する「否定命題の提案」の意味の否定命令文の発話過程を考えよう。この意味解釈の特徴は文の提案内容が文を

構成する要素の全体であることにある。つまり tell him about だけでなくて，Don't も含めた "don't tell him about it" という文全体が提案の内容である。「提案」が一種の仮定性，非現実性の表現であるからには，この種の解釈での否定命令文は，don't を含めた構成要素の全てが非現実的な内容を表している事になる。don't を含めた構成要素が全体で一つの架空の世界を造り上げている事実から，話者が後続の要素だけでなく don't も全て非現実的立場で発話すると仮定するのが妥当であろう。すると FIGURE 3 のような発話モデルが想定できる。

The Cognitive Process of Suggestion Reading

CS: ------→Don't tell him about it

CP: UWP

**FIGURE 3**

FIGURE 2 と FIGURE 3 は否定命令文の多義性が何故生じるのかと言う問題に一つの原理的な答えを与えてくれる。つまり「禁止」と「提案」の二種類の読みの根底にあるのは否定表現 "don't" の認識的立場の違いであると説明できる。つまり前者では don't を現実的立場 (RWP) で，後者の読みでは don't を非現実的立場 (UWP) で発言している。換言すると否定表現 don't に対応する話者の認識的立場が RWP なのかそれとも UWP なのかと言う違いが潜在的多義性の要因であると説明できることになる。次の節では以上のような提案が他の否定命令形に，また呼格に及ぼす否定の作用域の問題にどのような説明を与えることができるか見ることにしよう。

## 2. 否定命令文の振舞い

この節では第一に do not が先行する命令文 (以後 Do-not IMP と表記) と don't you が先行する命令文 (以後 Don't IMP) の二つの強意の命令形各々の性格を特徴づけるために，前節で議論した標準的な否定命令形である Don't が先行する命令文(以後 Don't IMP と表記)との比較をする (2. 1)。次に Don't IMP の二つの意味解釈と anyone 対 someone に代表される呼格 (vocative) の

選択との間の関連の問題を議論する (2.2)。

2.1 従来 Do not という否定形式は縮約形の Don't よりも強意的であることが知られている。しかし Do-not IMP と Don't IMP との違いは単なる響きの強さには止どまらない事を次に見ることにする。

(9) a. Do not get in the habit of borrowing thing, son.
b. Do not walk suggestively. Do not stare meaningfully. And do not dress provocatively.
c. Do not forget to tune in again tomorrow.
d. Do not fail to include three or four extra men.
e. Do not aggravate them. Do not engage in conversation with them.
f. Do not argue him out of his pessimistic stance.

(9) の例文を詳細に観察すると Do not IMP の解釈は常に「禁止」であり「提案」の解釈は存在しない事が判る。つまり Do-not IMP を Don't IMP から決定的に融てている一つの特徴は多義性の欠如である。この事は「提案」の解釈が可能であるばかりでなくむしろ優先される上記の (7) の文脈の中でテストすると明らかである。

(10) a. A: Is there any way to make the life in a dormitory comfortable?
B: (?) Do not get in the habit of borrowing thing, son.
b. A: Can you tell me how to keep men's attention away?
B: (?) Just do not walk suggestively. Do not stare meaningfully. And do not dress provocatively.
c. We're going to have a special feature of hos week. (?) So please do not forget to tune in again tomorrow.
d. (?) When you have a single women's party, do not fail to include three or four extra men.
e. A: What should I do if I'm accosted by one of the demonstrators?
B: That's a very important point. (?) Do not aggravate them. (?) Do not engage in conversation with them.

Just ignore them.

f. A: I don't know to cope with Peter's negative attitude.

B: (?) Do not try to argue him out of his pessimistic stance. Try saying something like, "I'm not sure that the conditions we faced then are the same as now."

(10) のような文脈の中では Do not IMP は Don't と比べるとまったく不適切ではないにしても，不自然な感じは否めない。一般に Do-not 形が許されるとしたら，その典型的な場面の一つは肯定命題部に相当するような現実が厳然として存在していることが話者と聞き手の双方に明らかな場合であろう。例えば (10) a では既に "the habit of borrowing things" という状況が現実的に存在し，或いは (10) f であれば "arguing him out of his pessimistic attitude" という状況が現実に存在するか，口にされたか，または十分に起こり得る状況として予測される場合であろう。いずれにしても (10) の例が示唆しているのは「提案」の解釈は Do-not IMP と合い入れないということである。1節で見たように「禁止」の解釈の否定命令文の Don't に対応する話者の立場は現実的立場 (RWP) であることを思い起こそう。Do-not IMP は一義的に「禁止」であると言う事実は否定部 "do not" の対応する話者の認識的立場は常に現実的立場 (Real-World-Position) であることを示唆している。以上の考察から (9) のような強意の否定命令文の発話過程として FIGURE 4 (i) が提案できる。

The Cognitive Process of *Do-not* IMPERATIVES

| | | |
|---|---|---|
| CS: | Do not------ | ------→get in the habit of borrowing things |
| CP: | RWP | UWP |

**FIGURE 4 (i)**

この図は (9) のような Do-not 型の否定命令文では常に話者は Do not を RWP で発話した後，非現実的・仮想の世界に視点を移して "get in the habit of borrowing things" と言う打ち消されるべく仮定の内容を表す事を表記している。下の FIGURE 4 (ii) の様に「強意」の否定形 Do not が非現実的立場 (UWP) で発話されることは有り得ない。

CS: ------|------→*Do not get in the habit of borrowing things|

CP: UWP

**FIGURE 4(ii)**

もう一つの強意的な否定命令表現 Don't-you IMP の振舞いを考えよう。下の(11)a′, b′, c′はすべて「禁止」ではなく「提案」の解釈が好まれる文脈である。

(11) a. Don't you get in the habit of borrowing things, son.

a′. Is there any way to make the life in a dormitory comfortable? —? Don't you get in the habit of borrowing things, son.

b. Don't you forget to tune in again tomorrow.

b′. We're going to have a special feature of this week. ?So, don't you forget to tune in again tomorrow.

c. Don't you argue him out of his pessimistic stance.

c′. I don't know how to cope with Peter's negative attitude.— ?Don't you argue him out of his pessimistic stance.

これらの文脈の中では Don't you IMP は一様に不適切である。この事は Don't-you IMP にも「提案」の読みは不可能であること，Don't you IMP も Do not IMP と同じく一義的に「禁止」の読みに限られていることを示している。(11)のテストの結果を元に Don't-you IMP の発話過程モデルを考えよう。「禁止」の意味の否定形は現実的立場 (RWP) に対応する事から少なくとも Don't の部分の話者の認識的立場は RWP となる。問題は you である。you には常に対照強勢が置かれるが，命令文の主語の認識的立場は一定して非現実的立場 (UWP) である (cf. Takahashi 1989 b) という提案に従うと[2]，Don't you の you の部分の話者の立場は UWP が対応することになる。結果としてこの否定命令文の発話過程として FIGURE 5 のような物が考えられる。

The Cognitive Process of *Don't-you* IMPERATIVES

CS: Don't---|→you get in the habit of borrowing things---|→son.

CP: RWP UWP RWP

**FIGURE 5**

以上の議論の結果は(12)のように要約される。

(12) i) A speaker may process the negative *don't* in negative imperatives either at the RWP or at the UWP. The RWP corresponds to the preferred, "cancellation" reading; the UWP corresponds to the marked "suggestion" reading.

ii) A speaker invariably processes the emphatic negative *Do not* in *Do-not*-IMP at the RWP, not at the UWP; he invariably processes the *Don't* in *Don't-you* IMP at the RWP, and the *you* at the UWP.

2.2 次に否定命令文の多義性に関連して否定部が呼格 (VOCATIVE) に対して及ぼす作用域 (scope) の問題を考えよう。

(13)のような呼格を伴う否定命令文について Davies (1986: 74-75) は(13)aは "opposition to the possibility of anyone's speaking to Jane" の意味になる一方で(13)bは "a suggestion that one of the addressees should take the positive step of actively ignoring her" の意味になることを観察している。

(13) a. Don't talk to Jane, any of you.
b. Don't talk to Jane, one of you.

つまり，(13)aは常に一義的に「禁止」の解釈，bは常に「提案」の解釈と言うことになる。同じ事は(14)にも当てはまり，(14)aは「禁止」，bは「提案」に解釈される。

(14) a. Don't forget to tune in again tomorrow, anyone.
b. Don't forget to tune in again tomorrow, someone.

なぜこの様な振舞い方をするのか考えよう。any/anyone を特徴づける一つの意味は「非断定性」"nonassertive" であることにある (cf. Quirk 1985: 389-90, 782)。any の意味が「非断定性」であるとすると，本質的に肯定的な断定性を含意する「提案」を表す文と合い入れないことは容易に理解できる。例えば(15)の文は典型的に「提案」を意味する肯定の命令文であるが，この様な命令文の呼格として anyone は不適である。

(15) a. Give that elderly lady a seat, someone/?anyone.
b. Talk to Jane, someone/?anyone.

一方 any とは対照的に some は本質的に "assertive" な含意があるから「提案」の命令文の呼格として生じる事が可能である。

一般に some は否定の作用域に入らないから否定語の後には生じにくい。しかしながら some でも否定語の後の位置に生じる事がある。それは次の(16)が示すようにあくまでも some が先行する否定語の意味の作用域の外にある時に限られる。(cf. Quirk 1985: 788)。

(16) a. I didn't listen to some of the speakers.
[=There were some of the speakers that I didn't listen to]
b. I didn't listen to any of the speakers.
[=There were not any speakers that I listened to]

1節の議論の結果,「禁止」の読みでの Don't は現実的立場 (RWP), 一方「否定命題の提案」の読みの Don't は非現実的立場 (UWP) で発話されると仮定された。また呼格表現は現実的立場 (RWP) で発言されることを思い起こそう (cf. Takahashi 1989 (b))。すると上記の(14)の例文の発話過程は下の FIGURE 6 のように表記できる。

The Cognitive Process of example (14) a

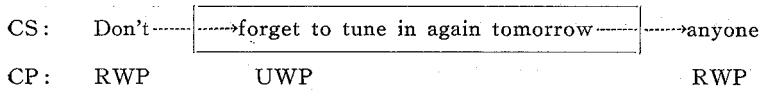


**FIGURE 6** (i)

The Cognitive Process of example (14) b

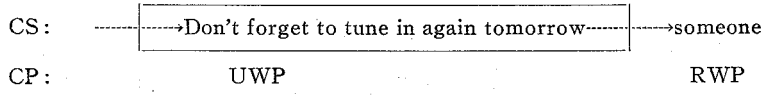


**FIGURE 6** (ii)

呼格が anyone である(14) a の場合は FIGURE 6 (i) のように Don't が RWP で発言され, UWP で発言されるのは肯定の部分のみである。一方呼格が someone である(14) b の場合は FIGURE 6 (ii) のように呼格は除いて Don't を含めた全ての構成要素が UWP で発言されていることになる。ここで注意することは, FIGURE 6 (i) では否定命令が「禁止」の意味の場合, 呼格 anyone

が否定辞 Don't の作用域の中にあるのに対して FIGURE 6 (ii) のように「提案」では呼格の someone 等が否定辞 Don't と別の世界 (Space) に属していて，呼格 someone が否定辞 don't の作用域の外にあることである。

つまり Don't 型の否定命令に呼格 any/anyone が生じると常に「禁止」の読みになり，他方呼格に one of you/someone が共起する時は常に「提案」の読みが解釈されると言う事実は，前者では否定辞 don't も呼格 any/anyone も共に話者の認識的立場が共通の RWP であるために any/anyone が Don't の否定の作用域の中に入るが，後者では否定辞と呼格がそれぞれ UWP 対 RWP と異なる認識的立場で発話されるために someone が Don't の否定作用域の中に入らない事の必然的結果であると見なすことができる。

以上見たように発話過程の観点からの分析は，命令文の否定部が呼格に及ぼす作用域の問題を，論理学的な枠組に依存せずに言語表現の背後にある話者の認識のあり方から扱う方法を提供するのである。

## 3. 否定命令文の COMMITMENT CONTINUUM

命令節，命令文は一般に話者が聞き手に対し何らかの「命令」を与える構文であると一般に考えられている。しかし日常の命令形の用法を詳しく観察するならば命令形の用法，意味は多様であり，形は命令文でありながら実際は「命令」以外の意味を伝えていることが少なくない。この様に命令形の意味の多様性を生み出す最も主要な要因は，話者がその内容の実現に対する専心 (COMMITMENT) の度合いに様々なレベルがあるためである (cf. Takahashi (c))。例えば (17) a–e の各命令文を見よう。

(17) a. YOU GET OUT NOW!
b. *Tie in your shoes.* And you won't keep on stumbling.
c. *Sit down quietly by the fire,* honey. Shall I mix you a drink?
d. *Mention it to a living soul,* and I'll hang you by the toes.
e. *Write an application form in blood,* and they will choose you.

(17) a の命令文の話者の COMMITMENT はほぼ最大値であると考えられる一方で，これと対照的に (17) e の命令文が表す内容は本気ではなく，「冗談」，

「皮肉」としか受け取れない。つまり COMMITMENT は最小値である。全体として(17)の中の命令文の COMMITMENT の数値は a から e へと上から下へ進むにつれて順次下がっている。以上の観察は FIGURE 7 のように図式化される。

The Commitment Continuum of the Imperatives in example (17)

| 0 | (17) e | (17) d | (17) c | (17) b | (17) a | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| minimum←------ | | | | | ------→maximum | |

**FIGURE 7**

FIGURE 7 が示す様に，令令文の COMMITMENT の数値が 0～1 の連続体を成していると言う見方は肯定命令だけではなく無論否定命令にも当てはまると予想するのは妥当であろう。この節では否定命令の COMMITMENT の問題を考えることにする。まず 3.1 では話者指向表現と命令文との関係を議論する。次に 3.2 では Do-not, Don't you, Don't それぞれの否定命令形がとり得る COMMITMENT の範囲を調べる。最後にそれぞれの否定命令の COMMITMENT の範囲と振舞いとの関係を説明する (3.3)。

3.1　英語では命令文と様々な話者指向表現 (speaker-oriented expressions)—please, for God's sake, do, TAGs, just, then, perhaps (RELATIVELY RARE)—が共起する。これらの表現は無差別にいかなる種類の命令文にも現れるのではなく，FIGURE 7 が表す COMMITMENT CONTINUM のある一定の範囲の COMMITMENT の命令文とのみ現れる。換言すると話者指向表現はそれ自身が表現することができる話者の感情の強さの程度と調和するレベルの COMMITMENT の命令形とのみ共起すると言える。例えば「冗談」としが解釈されない命令文は一般に COMMITMENT の度合いが低い。一方 please, do 等は「本気」の命令，すなわち COMMITMENT が高い命令文としか馴染まない。このため(18)の例はいずれも奇妙に感じられる。

(18)　Write an application form in blood, ? *please*
　　? *Do*/? *Please* write an application form in blood.

また(19)のように叫ぶ命令文は話者が激しい感情を込めて発言しているわけ

で非常に COMMITMENT が高い。このため思い入れの弱い言葉である just/perhaps は奇妙である。

(19) ? YOU GET OUT, perhaps!
? Just YOU GET OUT!

一般に for God's sake, do, please のグループの COMMITMENT は 'very high' であり (17) a のような YELLING を除いてかなり高いレベルの commitment を好む。TAGs は 'high', そして just, then は relatively low～high の広い範囲の命令文に生じやすい。perhaps は 'relatively low' であり，肯定的ではあっても非常に弱い提案にしか生じない。以上から話者指向表現は否定命令文の COMMITMENT degree を判定する上で有効な尺度となることが分かる。以下の議論では Do-not IMP, Don't-you IMP, Don't IMP の順でそれぞれが上記の FIGURE 7 の COMMITMENT CONTINUUM 上で占める範囲を特定してみよう。

3.2 第一に Do-not IMP の COMMITMENT の範囲を調べよう。

(20) a. DO NOT get in the habit of borrowing things! (YELLING)
b. *For God's sake/ Please* do not get in the habit of borrowing things.
c. ? Do not get in the habit of borrowing things, *will you*?
d. ? *Just* do not get in the habit of borrowing things.
e. ?? Do not get in the habit of borrowing things, *perhaps*.

(20) c–e の低い容認性と (20) a–b の容認性から，Do not はかなり高い COMMITMENT に限られ，しかも YELLING のような最大値とさえも適合することが判る。Do-not-IMP の COMMITMENT の高さを確証するもう一つの証拠がある。IF–THEN の意味での IMPERTIVE–AND–DECLARATIVE 構文には命令節の COMMITMENT が高ければ高いほど IF–THEN の解釈が成立しにくく構文全体の容認性が下がるという特徴的な性格がある (cf. Takahashi (c))。この事実から DO–NOT IMP はこの構文に馴染まないということが予測されるが，下の (21) はこの予測が正しいことを示している。

(21) a. ? Do not get in the habit of borrowing things AND people

will trust you

b. ? Do not argue him out of his pessimistic stance AND he will open his heart.

c. ? Do not walk suggestively AND men won't stare at you.

IMP-AND-DEC 構文と逆に IMPERATIVE-OR-DECLARATIVE 構文では IMP の COMMITMENT が常に高い (cf. Takahashi 1991)。この事実は Do-not IMP が IMP-OR-DEC 構文に生じやすいことを予測するが，(22) が示すようにこの予測は正しい。

(22) a. Do not get in the habit of borrowing things OR people won't trust you.

b. Do not argue him out of his pessimistic stance OR he won't listen to you.

c. Do not walk suggestively OR men will stare at you.

上の観察からも DO-NOT IMP が高い COMMITMENT を単に好むというよりは高い COMMITMENT 以外では生じない事が分かる。

次に Don't-you IMP を調べよう。

(23) a. DON'T YOU get in the habit of borrowing things! (YELLING)

b. ? *For God's sake*/? *Please* don't you in the habit of borrowing things.

c. ? Don't you get in the habit of borrowing things, *will you*?

d. ?? Just don't you get in the habit of borrowing things.

e. ?? Do not get in the habit of borrowing things, perhaps.

(23) b が示すように Don't-you IMP が Do-not IMP と振舞いが異なるのは for God's sake/please 等の話者指向表現との共起可能性である。これらの表現が Do-not IMP とは共起するのに対して Don't-you IMP とは一切共起しない。この結果 Don't you が Do not 以上の COMMITMENT の高さを要求する事が分かる。[3] 従って IMP-AND-DEC 構文には Do not 型以上に不自然になるが，IMP-OR-DEC 構文ならばその COMMITMENT の高さゆえに適合する。

(24) a. ?? Don't you get in the habit of borrowing things AND people will trust you.

b. ?? Don't you argue him out of his pessimistic stance AND he

will open his heart.

c. ??Don't you suggestively AND men won't stare at you.

(25) a. Don't you get in the habit of borrowing things OR people won't trust you anymore.

b. Don't you argue him out of his pessimistic stance OR he won't listen to you.

c. Don't you walk suggestively OR men will stare at you.

最後に Don't IMP の COMMITMENT の分布の範囲を見よう。

(26) a. Don't get in the habit of borrowing things! (YELLING)

b. *For God's sake/Please* don't get in the habit of borrowing things.

c. Don't get in the habit of borrowing things, will you?

d. Just don't get in the habit of borrowing things.

e. Don't get in the habit of borrowing things, perhaps.

(26) から don't IMP は COMMITMENT の許容範囲が広いことが判る。ここで考え得る一つの疑問はゼロや負の COMMITMENT にも可能かと言うことである。以下の (27) を見よう。

(27) a. MINUS COMMITMENT

?Don't mail the letter today and it won't arrive at their office by the deadline.

?Don't write the paper clearly and they won't recommend it.

b. ZERO COMMITMENT

?Don't fail to jump 100 feet and you will the medal.

?Don't forget to hand around with old, fat people and you will look young and thin.

(27) の各例文が全て不適切である事実は標準的な否定命令 Don't-IMP の場合も強意の否定命令文と同様にゼロや負の COMMITMENT では生じる事がない事を明らかにしている。

以上の議論の結果, Do-not-IMP, Don't-you-IMP, don't-IMP のそれぞれの COMMITMENT degree の分布は FIGURE 8 のように表記できる。

Negative imperatives and the Commitment Continum

Do-not IMP……

Don't-you IMP……

0 Don't IMP …… 1

minimum maximum

**FIGURE 8**

3.3 FIGURE 8 の図式は何故 Don't IMP に限り潜在的に多義性があり，何故 Do-not IMP や Don't-you IMP には多義性が無いかという問題に一つの答えを与える手掛かりとなる。上の図が表すように Don't IMP を他の否定命令形と隔てている特性は許容できる COMMITMENT degree の分布の広さである。高いものだけには止どまらず基本的に肯定的である限りは低い COMMITMENT でも可能である。すると次の問題は Don't IMP の多義性と COMMITMENT の関係である。もっと具体的には「禁止」と「提案」の二つの読みは COMMITMENT CONTINUUM 上のどの位置を占めているかである。下の例(28)を考えよう。

(28) a. *For God's sake/Please* don't get in the habit of borrowing things.
b. Don't get in the habit of borrowing things, *will you*?
c. *Just* don't get in the habit of borrowing things.
d. Don't get in the habit of borrowing things *then*.
e. Don't get in the habit of borrowing things, *perhaps*.

文 a と文 b は「禁止」の解釈しかない。一方他の文 c, d, e は全て「禁止」と「提案」の二つの解釈が可能である。しかも c から e へと COMMITMENT の数値が下がるほど「提案」の解釈が優先的になってくる事に注意しよう。以上の観察から次のことが判る。Don't IMP が高い COMMITMENT を伴う時は「禁止」の解釈しかない。COMMITMENT が下がるにつれて Don't IMP の有標の読みである「提案」の解釈がより優先的になってくる。つまり Don't IMP に多義性が生じるのは比較的低い COMMITMENT にのみ生じると言うことであり，非常に高い COMMITMENT では有り得ない。

典型的な否定命令文の解釈である「禁止」は広い範囲の COMMITMENT が有り得るのに対して例外的な「提案」の解釈は DO NOT 型と DON'T

YOU 型にはないという事実は Do-not IMP と Don't-you IMP が非常に高い COMMITMENT でしか発言されないことの自然な帰結として理解することができる。以上の議論から次のような一般化ができる。

(29) (i) The prototypical cognitive position of *don't* in a negative imperative is RWP, a cognitive position which is associated with the cancellation reading.

(ii) The *don't* in a negative imperative can be issued in UWP if and only if the imperative involves a positive but low commitment to the relization of the content. In such a case the negative imperative receives the suggestion reading.

## 4. 結　論

本稿は否定命令文の二種類の読みを中心とする幾つかの問題に発話過程 (Utterance Process) の観点からの分析を試みた。この結果以下の事が明らかになった。第一に否定命令文の否定辞 Don't には二種類の認識的立場 (cognitive position) が可能であって，言わゆる優先的な「禁止」の読みの場合は現実的立場 (Read-world-position)，一方やや例外的な読みの「提案」では非現実的立場 (Unreal-world-position) が選ばれることを主張した。第二に Do-not IMP と Don't-you IMP の否定命令には「禁止」の読みしかない事実は Do-not 及び Don't-you の中の Don't が現実的立場で発言され，非現実世界には属さない為であると言う考えが提案された。第三に呼格としての anyone/someone が Don't IMP の否定の作用域及び否定命令文の解釈に及ぼす効果の問題を発話過程の観点から説明した。最後に上の三種の否定命令形各々が可能な COMMITMENT CONTINUUM 上の分布を調べ，Do-not 型命令形と Don't-you 型命令形の COMMITMENT の分布は非常に高く，かつ狭いレベルに限られるのに対して，一方標準形の Don't 型命令形はより広い分布を占めることが示された。そしてこの COMMITMENT CONTINUUM 上の分布の違いが Don't 形否定命令の二つの読み (多義性) に密接に関係することが明らかになった。

## NOTES

[1] Ljung (1974: 146) も Don't による否定命令文の多義性を指摘している。例えば(i)の両方の文は多義であり，それぞれ (ii)a とbがパラフレーズする二種類の解釈が可能であるとする。

(i) Don't be foolish!
Don't be a fool!

(ii) a. Don't start being foolish/a fool!
b. Start being non-foolish/a non-fool!

Ljung の見方が本稿の主張と異なるのは Ljung がこの問題を「前提」の有無の問題として処理しているところにある。つまり "previous foolishness in the addressee" が前提とされている時，(ii)a の解釈になり，その様な前提がない時 (ii)b の解釈になると Ljung は主張している。しかし本稿の後の議論が示すように，Ljung の言う前提の有無は上記の Don't 型の否定命令文の読みの決定的な基準にはならない。例えば (iii) の文は "previous foolishness in the addressee" が前提とされているにもかかわらず「提案」の解釈，つまり (ii)b の解釈が可能である。

(iii) A: I know I was a fool. But I really love Judy. How can I have her back with me again?
B: Well...Get yourself a steady job. And don't be a fool, perhaps.

[2] Takahashi 1989 b では命令文に現れる主語と呼格の間の微妙な振舞いの違いの根底に認識的立場の違い——非現実的立場 (UWP) 対現実的立場 (RWP)——がある事が提案された。

[3] for God's sake/Please が Don't you IMP と共起しない原因としては両者の COMMITMENT degree の不一致だけでなく語用論的な不一致にも一因があると思われる。for God's sake/please は主として「懇願」(pleading) の意図を伝える。Don't you には時に「権威的」な響きがあり「懇願」的な言葉と調和しない事もある。しかし大切なことはこの様な語用論的な不適合のみが両者の結合の容認性の低さの理由でもないと言うことである。

## REFERENCES

Davies, Eirlys 1986 *The English Imperatives.* London: Croom Helm.
Fauconnier, Gilles 1985 *Mental Spaces: Aspects of Meaning construction in Natural Language.* Cambridge, Mass.: MIT Press.
Ljung, Magnus 1975 State Control. *Lingua* **37**: 129–150.
Lyons, John 1977 *Semantics,* vol. 2. London: Cambridge University Press.
Quirk, Randolph et al. 1985 *A Comprehensive Grammar of the English language.* London: Longman.

Takahashi, Hidemitsu 1989 a English Imperatives and a speaker's cognitive standpoints. Hokkaido University, the Faculty of Letters, The Annual Report of Cultural Science **38-1**: 47-61.

——— 1989 b English Imperatives and a speaker's cognitive standpoints, 2 Hokkaido University, the Faculty of Letters, *The Annual Report of Cultural Science* **38-2**: 109-118.

——— 1991 On the "IMPERATIVE OR DECLARATIVE" Construction. Hokkaido University, the Faculty of Letters, *The Annual Report of Cultural Science* **40-1**: 181-205.

(c) (forthcoming) English Imperatives and the Speaker's Commitment Continuum

(d) (in preparation) Cognitive Process